

JAC AWARD をいただいて

AOI Pro. 川口雅弘

JAC AWARD 2018 年でグランプリを頂いてから、早いもので3年以上が経ちました。

入社7年目、2014年にプロデューサーになってから、JAC AWARDの事は意識していました。錚々たる方々が受賞していた事に刺激を受け、いつか自分も受賞出来たらいいなと思っていましたが、プロデューサー2年目で応募した時は、あっさりと予算敗退でした。受賞へのハードルは非常に高いな、もっと評価に値するプロデュースをしなければと、自分を奮い立たせた事を鮮明に覚えています。

その後、グランプリのキッカケになった OKGO の案件が2015年からスタートします。企画段階から完成まで、およそ3年かかり、自分の中ではトップクラスに入る難易度の案件でした。スタート時は、1年程度で完結出来る予想だったのですが、試行錯誤、悪戦苦闘の連続で、結果的に3年を要す一大プロジェクトとなりました。

この案件では、自分のプロデューサーとしてのスタンスを常に問われていた気がします。

「最後までリードして、映像を世に生み出せるか」

プロデューサーとして一番大事な事は、先頭に立ってスタッフを鼓舞し、最後までやり抜く力であると思っていますが、この案件は、自分の仕事にかける思いやスタンスが色濃く反映された映像になったと思います。

そして、この制作過程を評価して頂いた JAC AWARD グランプリの受賞。

昨今、働き方改革なども相まって、制作会社の環境が変化していく中、長期間を要したプロジェクトを評価して頂いた事は素直に嬉しかったですし、プロデューサーとして一番大事な事は何かを、再確認出来る場所でした。

これからもグランプリの名に恥じぬよう、周りが度肝を抜くプロデュースに励んでいきたいと思っています。